

**第3期牧之原市子ども・子育て支援事業計画、牧之原市次世代育成支援行動計画、
牧之原市子どもの貧困対策計画に対するご意見・ご質問への回答**

No.	項目	ご意見・ご質問	回答（市の考え方）
1	第4章 施策の展開	実際のところ事業推進用の予算には限りがあるので、各々の事業に対しどれだけの予算を投じてどの程度の効用を得たのかをしっかりと定量して、優先順位の高いものを取捨選択していくということが計画策定上重要かと思います。網羅的な計画は一見見栄えは良いですが、現実的には施策の費用対効果を悪化させるものと思います。すでに国から高額税負担を強いられている市民のために、見栄えよりも実利をとった施策をお願いしたいです。	第2期計画の計画期間内において、取捨選択による事業終了や、上位の取組へ移行したこと等による廃止事業があります。各取組の評価（P33～36）の詳細については、完成版の資料編に掲載予定ですので、そちらもご覧ください。 なお、本計画は、牧之原市の子ども・子育て施策を国や県の関連計画との整合のもとで推進するための計画です。本計画の上位計画に当たる「第3次牧之原市総合計画」及び「第4次牧之原市地域福祉計画」などと整合を図るとともに、「健やかプランまきのほら（健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画）」や「障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画」など、他の福祉分野の計画との整合・調和を図りながら計画を推進してまいります。
2	同上 同上	牧之原市は、近隣市町村に比べると居住地としての魅力が乏しいことは否めません。3世帯同居率の高さが示すように、代々この地に暮らす人々にとっては魅力的であったり、守るべきと感じられたりする地域ではありますが、そのような背景の無い市外出身の方々にとっては、新たな居住地として選ぶための魅力をあまり提供できていないように思います。子育て環境を良くする施策とともに、子育ての場所として牧之原市が市外出身者から選ばれるための施策を優先すべきだと思います。	牧之原市が居住地として選ばれることは最優先事項の一つであると認識しております。牧之原市では、子どもを持つ世帯、特に子育てをする母親目線での施策を充実し、若者世代の流出抑制・定住促進につなげるため、「日本一女性にやさしいまちの推進」を第3次牧之原市総合計画の戦略に掲げております。 また、第3次牧之原市総合計画のそのほかの戦略においても、安全安心の確保や既存市街地・沿岸部の活性化、移住定住の促進や地域交通ネットワークの充実など、各種の施策を通じて市の魅力の向上に取り組んでいるところです。

No.	項目		ご意見・ご質問	回答（市の考え方）
3	同上	同上	1つの提案として、子育て世帯への市民税の控除し近隣市町村よりも生活コストを下げるメリットを提供することはできないでしょうか。第二期計画の基本理念に『今と未来と子育てを地域で支えあう』という文言がありますが、1年間の市内の出生数が200人以下となっている状況では市は未来に存続できないと思いますし、また子育て世帯数が少ない状況下では財源は捻出しやすい額であろうと思います。また可処分所得が上がれば地域経済を潤す分、市財政への影響は軽減されるはずです（地方税法、地方自治法上、総務省を説得できないのでしょうか）。本計画に投じている予算を、直接的に子育て世帯の減税や給付積み増しに使い、これを市で子育てすることのメリットとしてPRしていくことのほうが効果が高いように思いますが、一度試算、調査されてみるのはいかがでしょうか。	御提案いただいた市民税に関する内容については、地方税法等関係法令により運用される制度であり、本計画における対応は困難と考えております。国では、こども大綱及びこどもまんなか実行計画を推進しており、新たな支援策が検討されておりますので、引き続き、国、県の動向を注視し、当市の施策への反映に取り組んでまいります。 現在、市では子育て世帯の負担軽減に関しまして、入学支援金支給事業などの市の独自事業をはじめ、出産・子育て応援給付金事業やこども医療費助成事業など様々な支援を行っています。 人口減少に伴う税収の低下等により安定的な財政運営に支障が生じることがないよう、限られた財源を効率的に活用するため集中と選択による賢い行財政運営に取り組んでまいります。
4	同上	同上	子どもを連れて行きやすい飲食店を誘致してほしい、駐車場ありの公園を静波地区や細江地区にほしい、大型商業施設のような何ヶ所も買い物で回らなくてもいいところを誘致してほしい、チャイルドシートからの乗せ替えを2人、3人分するのが大変です	新拠点整備室が手掛ける相良牧之原インターチェンジ北側開発においては、多くの店舗が集合した施設や公園などを活かした賑わいの創出の取組を進めております。 また、沿岸部活性化事業として、静波エリア、相良・地頭方エリアの双方において、魅力ある地域づくりのための調査検討を、地元や民間企業とともに進めております。

No.	項目	ご意見・ご質問	回答（市の考え方）
5	第6章 計画の推進体制	子ども・子育て支援事業計画は、子育てしやすい環境を構築することを手段とし、市の持続や発展を目的としたものと思います。本計画の成否は、資料にあるような行動目標をどれだけ達成したかという物差しで測るのではなく、どれだけ出生率を高められたか、あるいは他の市町村に比べて、または以前の牧之原市と比べてどれだけ出生率の低下を抑えられたか、という物差しにて評価するべきと思います。	本計画の上位計画である「第3次牧之原市総合計画」においては、令和12年度末の将来人口（目標人口）を40,200人としています。政策成果による直近の日本人20歳から39歳男女の移動率の半減などにより、同時期の国立社会保障人口問題研究所の推計に比べて、約5,000人の人口減少抑制を目指しています。 出生数が減少している状況を改善するため、市では、若者世代の住みやすい環境づくりに向けて、子育て、働き方、教育、家族生活など、各ライフステージにおける付加価値の高いサービスの提供に力を入れています。 その中で、子育て世代の定住・移住につながる各種の取組を本計画に基づき推進していくことで、総合計画の目標人口の達成を目指してまいります。少子化対策につきましては、出産・子育て応援給付金事業や、市独自事業の不妊治療費助成事業などの施策の展開により、取り組んでまいります。